

平成27年度 第1回 総合教育会議 会議録

1 開催日時 平成27年6月4日(木) 午前10:00～12:00

2 場 所 飯山市役所 3階 31号会議室

3 出席者 飯山市長 足立正則
教育長 長瀬 哲
同職務代理 清水岩夫
委員 田中妙子
委員 樋口一男
委員 西條三香

4 出席した事務局職員

教育部長 丸山信一
子ども育成課長 常田新司
学校教育係長 丸山真央
学校教育係 高橋健一

5 会議の経過及び発言

1 開 会

2 あいさつ

(足立市長)

おはようございます。今日は総合教育会議の第1回目です。少子化の中で、この会議をとおして、飯山市でぜひ子育て、教育をしたいというような方向になれば大変いいのではないかと考えております。

課題はいろいろあるかと思えます。どんな課題があるのか、じゃあそれをどういうふうに進めるのかといったことで意見交換できればと思えます。

今年度の中では教育大綱をつくるということになっております。12月ぐらいの完成を目標としておりますので、よろしく願いいたします。

3 会議の進め方について

1) 総合教育会議の位置づけ及び教育大綱との関連

2) 会議の進め方

上記について、資料1ページから5ページを事務局教育部長より一括説明。

4 現行計画の確認及び進捗状況

資料6 ページから12 ページを事務局教育部長より一括説明。

(足立市長)

この計画の進行管理は、あくまで事業の進行管理。ある程度課題を絞ってわかりやすくしないと何をしていいかわからなくなってしまう。また、それに対して、数値化するかどうかの問題はありますが、何かないと比較ができません。現在の重要問題は何なのかを検討した方がいいと思います。

(清水職務代理)

「何かを出したから達成した」あるいは、「作成したから達成した」という進捗状況だが、実はそうではないと思います。例えば、ふるさと教育で資料集・副読本を作った、というのがあるが、作ることは実は半分で、その後どう活用してどんな成果が挙げたということがもう半分。そういう立場で物事を見ていかないといけないと思います。細かく切り込んでいくのはこの総合教育会議の場ではないかもしれませんが、しかしそこへ触れていくことが大事な市の教育の方向を決めていくのではないかと感じます。

(田中委員)

冊子とか資料ができて達成したということは行政の皆さんにとってはそれも大事な部分だと思います。子どもの中のどういう部分が育ってきたのかということは、非常に見えない部分であり、評価すること自体が非常に難しいと思うのですが、まさに市長がおっしゃったように、重点を設定し、どれだけ心の中で育ってきているのかというところを評価していく必要があります。加えて、子どもの夢を育てるといっても大事な部分である、「ふるさと出身の先輩に学ぶ」。この項目は、到達目標が「21年度実施」となり、「実施済」になっている。毎年新しい子供たちが中学校に入ってくるので、この部分は継続いただきたいです。こういった細かいことを見ていけばいろいろと課題、問題になることがあるので、またみんなで見直しをしていけばいいと思います。

(樋口委員)

いかに Plan-Do-See (計画 - 実行 - 評価) だと思います。計画を立てて実行し、その結果がどうだったのか、やっぱりその繰り返しが大事。実行する先生方の反応があり、それを受ける子どもたちの反応がある。今度はその子どもの親側の反応もあるはずで、さらに地域があり、それらが一体になるとものすごくよくできると思います。例えば地域の歴史に詳しい人の話を聞くあるいはその人に授業に来ていただく、そして話を聞く子どもがいて、その子供が家に帰ると「正受庵って聞いたことないんだけどこれって何なの」、そうすると親も知っていることは教えるし、知らないことは一緒になって考える。こうしてうまく地域と保護者と関わっていけるのではないかと思います。そういう意味でも地域にも保護者にも学校側からもっと情報提供をしていただきたい。多くを伝えていただくのが一番大事だと思います。先ほど言われたスキーもそうだと思います。学校で2回行くと、家でもまた連れて行ってこれって子どもが出てくると思うんです。そうしたら親が、自分で連れていけない時は地域など、そうやって保護者が地域と連携していくような流れになっていくと、おのずと結果はよく出てくると思います。

(清水職務代理)

子どもが変わってきている姿が具体的に見えてくることは私は大事だと思います。点数が上がることも大事な評価の材料ですが、そういうことを評価していかないと施策と実態が離れてしまう。ただ田中委員もおっしゃったように非常に評価の難しいところだと思います。

(西條委員)

子どもたちが飯山っていいとこだなと思ってもらえるといいと思います。自分もずっと飯山はいいなと思っていますが学校やこの会議など、いろいろなものを通じて、飯山がよくて、飯山に戻っててもらえるような形になればいいなと思います。

(足立市長)

子どもたちが自立して世界の中で生きてい行くためのベースを作るというのが義務教育の本来の一番大事な任務であるというふうに思っています。人とのコミュニケーションや学力・知識などが大事で、もちろん完璧なものなんて必要ないですが。そこにいろんな問題が付随してくると思うんだけど、根幹をしっかり掴んでアプローチをしていくことがとても大事ではないかと思います。あまり細かくやっていると、どれが大事な目的なのかが分からなくなるので、大きく概要を掴んでそれから派生するものは派生するものとして捉えていった方がいいのではないかと思います。それから、「飯山らしい教育」という名称じゃないほうが新しい教育大綱にはいいかもしれないですね。飯山らしいっていうのはよくわからない。漠然としない方がいいと思います。「ふるさと教育」とか、そんな感じがいいと思います。

5 (学校) 教育の現状と課題及び将来展望

事務局教育部長より、資料13ページ以降を一括説明。

(清水職務代理)

定例教育委員会と総合教育会議との内容をきっちり分ける必要はないとは思いますが、定例教育委員会での事前の十分な話し合いを持って、そしてここへ臨みたいなど、そういう気持ちを強く感じます。

(足立市長)

不登校について、飯山市は県平均等と比べて特別多いわけではないのか。

事務局教育部長より、平成25年、26年は県平均を下回っている、それ以前年は県平均より非常に高かったとの説明。

(長瀬教育長)

(補足して) 中学校は県下でワースト1位だった。

(足立市長)

平成24年以前はずっと高かった。なぜ高かったのですか。

(長瀬教育長)

いろいろ検討しました。小学校から中学校に来た時の勉強が十分理解できていないのが大きな要素ではないかと思っています。

(足立市長)

結果を大雑把にみると、小学校はあまり差がない。中学校になると点数が全国平均より低い。中学校のところの学力向上、これを見る限りではこれが課題だという感じがします。

(清水職務代理)

それが大きい課題なんですよ。

(足立市長)

それなら、それにある程度集中したほうがいいのかと。やっぱり中学校になると急に難しくなるから、家でも勉強しないとなかなかついていけないですよ、きっと。そういうところの体制をどうするのかっていうことなんですけど、逆に言うと、わかりやすくやれば不登校率もかなり減るのでしょうか。やっぱり、少し問題点を絞ってアプローチしていった方がいいんじゃないかなと思います。

(教育長)

小学校でもわからない児童が結構いるんですよ。

(市長)

個人差があるので、一概には何とも言えないんだけど、中学校になると非常に差が付きやすくなっちゃう。勉強しないと全くわからなくなっちゃう。中学生の数学とか本当に難しいですよ。概念が入ってくるから。概念が入ってくるのが得意な人たちも当然ですよ。芸術的とか国語的にはすごく才能があるんだけど数的把握とかそういう概念的なことが苦手な人も当然います。ただそういう人の場合は細かい段階のもので少しずつ理解していけばわかると思いますが、それじゃ時間がかかり過ぎるので授業の中でそこまでひとりひとりに対応できない。結局、中学校になるとそういうものばかりになっちゃうので差が付きやすくなる。もうちょっと細かくできればいいなという気はしていますが。

(長瀬教育長)

飯山市の小学校は単級だとは言っているけど、みんな少人数なんです。30人以上とかの学校と比べると環境的にはものすごくいいと思っています。そのメリットがなぜ生かされないのかを痛切に感じます。それを何とかプラスに生かしてくれば地域の人はいくらでも大丈夫なんだなっていう風な実感を持てると思いますよ。

(足立市長)

学力テストの結果は、あくまで平均の話であって、ひとりひとりがどういう風に分布しているのかというように分析しないと実際はわからない。

(長瀬教育長)

全国平均はどの子どももクリアできるようなところが僕の夢です。

(足立市長)

そうなればクラスとしてすごいことになる。でもそれは相当高いレベルですよ。小学校の学力向上を課題にして、それをどういうふうにしてアプローチしていけばいいのか、そういったおおまかな部分というのがやっぱり必要なんですかね。

(長瀬教育長)

最近先生方ががんばってきていると思います。

(足立市長)

昔みたいに夕方になると飯山駅前に子どもたちがたむろしているなんていうような問題は、もうないので、どうしたら子どもたちの学力向上、勉強嫌いを克服させるというようなことですね。

(清水職務代理)

子どもの学年ごと段階に応じた目標みたいな、そういうものをしっかり持っているのとたむろするなんてことは少なくなると思います。学校の様子や、もっと言うと学級の雰囲気ひとつで子どもは不登校になったりもしますので、どこに原因があるのか分析してみる必要があると思っています。

(田中委員)

今までは不登校の問題と学力向上が大きな課題だったわけですね。よくなりつつあるけども、特に中学に学力の面でも数値があまり芳しくない。小学校は比較的差が付きにくいので、そういう問題が内在しながら中学校へ進級して、問題が表面化してきたと捉えた方がいいだろうなと思います。また、中学校でなぜ不登校が多いのかっていうこと。確かに加配をして不登校支援手厚くしていただいている成果が非常に大きいだろうなとは思いますが、2つある中学校で数値には見えてこない内在している問題の掘り下げをぜひ定例教育委員会でもこの場でも時間をかけて考えていければと思います。やはり私はこの2つがまだまだ飯山市にとっては大きな課題であると思います。

中学校の学力の面、不登校の面にしても、原因にはいろいろあると思います。私が一つ最近思っていることがあります。部活の問題というのが非常に大きいなと思います。先生方が部活指導に非常に大きな時間を取られてしまう、もう土日連日、年間通してほとんど土日部活指導に追われるんですね。もちろん半日の日もありますけれども。土日せめてどちらか半日くらいならと思うんですが、部活に追われていると教材研究や、自分の調査活動っていうことをほとんどできない、私や清水先生も休みの日は調査活動に出ることが時間的余裕があっただけのように思います。部

活は副顧問という形で大会の時に一緒に引率していけばよく、具体的な練習等にそんなに時間を費やされることもなかったんです。ところが今の学校体制は職員の数が少なくなり主顧問だけで副顧問はつけられないんですね。主顧問が体調不良とか家の都合で休むということがなかなかできない。まして、調査活動に出る時間なんてほとんど取れない状況なんですね。本当に生徒数、先生の数が減ってきているんですから、部活はかなり数を減らさないとしても副顧問までつけるということができない。飯山市における中学校の部活の在り方は教職員の質を高める面でも非常に大きな課題じゃないかなと思います。城北・城南が一緒になってやれる部分っていうのがないところちょっと大変かと思います。そういう意味で中学校2校の部活動の在り方を考えていかないといけないんじゃないかと思っています。

(足立市長)

教師側の問題もあるだろうし、きっと生徒側の問題もあるだろうし、そういうのをそれぞれ汲み取って、それを解決していかないと改善されないと思います。課題をピックアップしていくということが今度は具体的なアプローチをしていくときにいいかなと思います。教育なので、完璧なものっていうのはあり得ない話で、ここまでやれたからできました、みたいなのだとは違うと思います。ですが、そうかといったって、やっぱりある程度課題は何で、こういう目標を持っていきましょうというふうにしないと進まないと思いますので、その部分をこれからどうしましょうかっていうのを話していければと思います。中学生の学力向上、やっぱり中学生になると格段に難しくなると思います。部活動が入ってくると、確かにすごいスケジュールだと思います。それは先生も一緒ですが。結局1年生ぐらいの時にわからないと、2年生や3年になっても追いつかない。それは本人の努力にもよりますが。ただ、部活動で健康な体を作ることとても必要だと思います。人生の中で一番大事なのはなんといっても健康であることだと思うので。

6 次回会議について

事務局教育部長より、次回は8月を予定し、教育大綱の件について議論したい旨の説明。

(足立市長)

例えば、算数とか計算ドリルとか、よくやっているのありますよね、ああいうのは教育委員会として学校に指示できないんですか。やればかなり違うと思うんだけど。よくやっているよね、必ず朝とか。ああいうものは、そろばんと一緒にやれば力が付くと思うんですが。

(樋口委員)

例えば、漢字検定とか英語検定とかも飯山の中学を出てくるとみんな英検〇級までとってくるのか、そういうのがあってもいいのではないかと思います。

(足立市長)

そういうのってやってほしいよね。思考力とかっていうんだけど、やっぱりその前の段階で頭が慣れるというか計算することがとっても大事なんです。まず、そういうのを小学校あたりで必ずやれと、そしてそういうのやればかなり違うと思う。そうじゃないと12月にやっと教育大綱ができて、それから各論の話をしていくとすぐに1年たってしまう。この話は総合教育会議の場

でやる話じゃなくて、つまり教育委員会の学校の先生方の話もあるんだけど、そういうのぜひ全校で取り組んでみろとか、そういうのはできないんですか。

(長瀬教育長)

難しい。今樋口さんの言った、英検、漢検のからみは今年具体的に中学生は数値、何パーセントとそれは出せるようにはなるんだけど、具体的にじゃあこれをやってみろと言ったら厳しい。

(足立市長)

子どもたちの算数、数学の能力を高めたりするためのドリルなど、そういうのがなぜできないのか外部から見るとわからない。私たちが中学校の頃は必ず毎朝英単語の10問ぐらいのものをやった。みんなで一生懸命やったという記憶がある。算数のドリルとか、それだけでもできないものなのか。5分や10分でやればいいんだから。やれば違うと思うんだけど。

(長瀬教育長)

いや、それがなかなか。

(足立市長)

それは校長先生の裁量なんですか。それとも担任の先生の裁量なんですか。校長先生がやるぞって声を出せばいいんじゃないですか。

(長瀬教育長)

それが現場では簡単に調整がつかないんです。

(足立市長)

学力の向上には、学校の全体としての授業のと、本人の勉強の二つがあると思います。低学年は無理なんだけど、高学年になってくればくるほど本人が自主的にどういう教材を使って勉強していくかというのが、現実的にはすごくウェイトが大きいと思います。本人の勉強については、調整できる話ではないのですが、学校側でやる部分については調整できればと。総合教育会議の中での話ではないのかもしれないが、だんだんとステップを踏んでいける練習問題をやっていけばどうか。そんなに時間かからないのでできると思うんだけどな。クロスカントリーは朝練習してるんでしょ。そういうような感じで。それだけでもかなり違う。

(清水職務代理)

できる、できないはともかくとして、やり続けていくことは大事だと思うんですよ。私事で恐縮なんですけど、例えば、夏休みに、孫の小学1年生が、足し算引き算のカードを持ってきて、毎日、1分半以内に2つやりなさい、という宿題が出ていました。最初泣いていてできなかったんですけど、帰ってから電話するとできるようになって喜んでいて。校長先生の考え方もあるんだろうけど朝読書をしましょとか、基本的なドリルをやりましょとか、そういう話は必要だと思います。やるやらないは別ですが。

(足立市長)

やれば相当違うと思うんだけどね。今度、こういう会議ができたので、市長がこう言っていると、教育委員会や学校に投げかける。そういうのがあってもいいのでは。総合教育会議に出たけど、何も変わっていないなというよりはいいと思います。

(長瀬教育長)

市長さんの子どもに対する熱い思いは校長会とかでも十分話してありますので。

(足立市長)

こうした練習は子どもにとって決してマイナスではないと思います。子どもにとって、将来役に立つか経たないかということで判断しないといけないと思うんですよ。清水先生からお話があったように達成できれば達成感があるし、そういうものやっていくことが飯山市教育としての一つの方向だということも大事ではないかと思います。

(長瀬教育長)

はっきり言えば現場の先生方の意識改革。すべての子どものためというそういう先生が一人でも二人でも増やすようには一生懸命やっているんですが、こちらの思いが現場の先生方一人一人に伝わって、気持ちと同じ方向に向いてくれるのか。でもあきらめないでやっていかなくちやいけないと思っています。

(足立市長)

学力向上のためこういうことでやりましょうねっていうのをある程度こういう中で出したっていいと思うんだよね。それでももちろん校長先生方ともお話ししないといけないんだけど。そうしないと結局何も変わらないと思います。

(長瀬教育長)

小中高がかなり連携していろんな形でやっています。市長がそれだけ熱い思いを持っているというのは校長会や現場の先生方に機会があるごとに話をしていきます。保育園を含め、小中学校の現場を一度市長にぜひ見ていただければと思います。

閉 会

事務局教育部長より、再度次回8月開催の連絡をし、閉会とした。